

題材名：作品について感じたり考えたりしたことを話し合おう

指導者 庄原市立山内小学校 教諭 森脇 勇太

日時 令和元年12月12日（木）4校時（11：35～12：20）

場所 図工室

学年 第5学年（男子3名、女子5名 計8名）

題材について

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）図画工作の第5学年及び第6学年「B鑑賞」（1）ア「親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。」に重点を置いて設定している。

本題材で扱う鑑賞材は、『海からの風』（板、テンペラ画、1947年、アンドリュー・ワイエス〔1917～2009／アメリカ〕、ワシントン・ナショナル・ギャラリー〔アメリカ〕）である。この作品は、作者がアメリカ合衆国の北東部にあるメイン州沿岸に住んでいた時の作品である。インテリアや建築物に焦点を当てていた作者の初期の絵画の一つである。作者は、身の回りのものにある「深遠な意味や豊かな感情を伝える力」を信じており、海から部屋へ入ってくる風が古びたカーテンにもたらした美しさに触発され、その瞬間を捉えようとし、この窓を描いたとされている。日常にもよくあるような窓から風が吹き込むという一場面を、写實的に表現した作品である。本作品を鑑賞材として選んだ理由は、描かれている内容が本校の児童にとって身近に感じやすいという点において、自分と描かれている内容を重ねて見たり、対話の中で互いの見方を共有したりすることに取り組みやすいと感じたからである。

児童の実態について

本学級の児童は図画工作科の表現の活動に対し肯定的に捉えている児童が多く、主体的に取り組んでいる。本年度、美術作品の鑑賞の活動は、11月に一度経験しており、自分一人で作品に対して感想を述べたり記述したりすることはできている。しかし、友人と対話し、作品に対する自分なりの見方や感じ方を深めていくところまでは至っていない。指導者が意図して対話をファシリテートしなければ、児童はそれぞれの見方や感じ方を一方的に話すだけにとどまる現状があり、友人との対話によっても自分の見方や感じ方が深まらない状況である。

指導にあたって

これまでの鑑賞の授業では、指導者が鑑賞の活動の意図を明確にもっておらず、児童一人ひとりの見方や感じ方を深める対話が十分に作り出せていなかったことが考えられる。今回の鑑賞の授業の指導にあたっては、指導者が意図して対話をファシリテートし、児童が作品に対する見方や感じ方を深め、自分なりの意味や価値をつくりだせるようにしていく。

本授業では、小学校学習指導要領（平成29年告示）図画工作「B鑑賞」の内容を参考に、児童の作品に対する見方や感じ方の深まりを3段階で示した。これによって指導者が児童の発言の内容により、作品に対する見方や感じ方の深まりを見取ることができるようにした。また、これらの段階を意識することで、指導者のファシリテートの方向性にも生かせるようにした。これを児童の発言例とともに整理したものが次の表である。

段階	視点	児童の発言例	「B鑑賞」に示される学年
1	形や色など	「丸い。」「青い。」	第1学年及び第2学年
2	形や色などの特徴や感じ	「白い色の大きな滝がある。」 「奥の川は、白い流れの部分があり勢いがあると思う。」 「波を何重もくねくねかいているから勢いがあるように感じる。」	第3学年及び第4学年 第5学年及び第6学年
3	（形や色などの特徴を踏まえた）表現の意図と工夫	「（作者は）滝つぼをかかないことで高く感じさせている。」 「作者は、有名な滝の雄大さを感じ取ってほしかったんだと思う。」 「（作者は）滝のまわりを黒くかくことで、滝の白さを目立たせている」	第5学年及び第6学年

また、本授業では、ファシリテーションとして、質問、指示、説明などを行う「ナビゲーション」と、支援、奨励などを行う「リレーション」を中心に進めていく。なお、本授業で使用したファシリテーションの種類と発言例については、別添①の表に示す。なお、ナビゲーションの「結び付け」は本授業の指導者が児童実態から必要性を感じて独自に考えたものである。ファシリテーションのポイントとしては、児童が作品に対する見方や感じ方を深めていけるように、児童の興味・関心に応じて鑑賞する部分を焦点化し、作品に表されている事実的なことから作品全体の象徴性へと深まるようにする。具体的には、授業の序盤から中盤にかけて作品に表現されている部分的なものについて、児童が自身の経験や知識などを基にして意味を考えられるようにする。特にこの段階では、児童ができるだけ多様な見方や考え方ができるように、リレーションの「称賛」「同意」「掘り下げ」を大切にする。中盤から終盤にかけては、「結び付け」を活用し、児童が作品全体の象徴性について鑑賞できるようにする。

題材の目標と評価規準

<題材の目標>

作品について感じとったことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、作品に対する見方や感じ方を深め、自分なりに作品に対する意味や価値をつくりだす。

<評価規準>

造形への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえ、作品に対する見方や感じ方を深めようとしている。	感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえ、作品に対する自分なりの意味や価値をつくりだしている。

指導と評価の計画

(全1時間)

次	学習内容(時数)	評 価					評価方法
		関	発	技	鑑	評 価 規 準	
一	○作品について感じたり考えたりしたことを話し合う。 ○対話によって、作品に対する意味や価値をつくりだす。 ○対話によって新たに感じたことや考えたことを振り返る。 (本時1時間／1時間)	○			◎	・感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえ、作品に対する見方や感じ方を深めようとしている。 ・感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえ、作品に対する自分なりの意味や価値をを発言したり記述したりしている。	発言 鑑賞シート

本時の学習

(1) 準備物 鑑賞材、鑑賞シート(別添)

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 〔評価方法〕
1 課題、流れの確認	◆：支援を必要とする児童への手立て	
○本時の課題、授業の流れ、対話の際の約束などを確認する。	・対話を中心に鑑賞を行うことを確認し、対話の際の約束(①友人の見方や感じ方を受け入れること、②話し合っていることとつながることから話すこと、③対話を楽しむこと)を共有する。 自分なりの見方や感じ方で作品を鑑賞し、感じたり考えたりしたことを話し合おう。	

2 導入		
○作品と出会う。	・各自が自分の見方や感じ方を働かせ、作品に対する自分のイメージをもてるようにするため、30秒間～1分間程度話さずに作品を鑑賞する時間を確保する。	
3 活動		
○作品を30秒間～1分間程度見て作品に対する考えをもつ。 ○気付いたことや感じたことについて対話する。	・友人と交流する前に、作品に対して自分の見方、感じ方ができるように、どのような事でも作品を鑑賞するポイントにつながることを知らせておき、様々な視点から作品と向き合わせる。 ・児童が見たり感じたことを引き出し共有させるため、ファシリテーションを活用し、児童の対話を支援する。 ・多様な見方や感じ方があることを受け入れ、認め合いながら対話できるように発言を価値付け、多面的な見方を肯定的に捉えられるようにする。 ・直感や思い付きだけの発言ではなく、対話によって共有しやすい根拠をもった発言を促すために、形や色、自分の知識や経験などを根拠に発言しているものを肯定的に評価する。 ・部分的な気付きから全体のイメージや雰囲気をつかめることを大切にさせる。 ◆自分の考えがもちにくいときは、「～がある。～がいる。」等の事実を話したり、指差したりするように促し、考えるきっかけをもてるようにする。さらに、「なぜ～があるのだろうね。」「～はどんな時に使われるのかな。」等とより詳しく想像し、さらに意味や価値をつくりだせるように問いかける。	・感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえ、作品に対する見方や感じ方を深めようとしている。〔関心・意欲・態度〕 ・感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえ、作品に対する自分なりの意味や価値を発言したり記述したりしている。〔鑑賞の能力〕
4 まとめ		
○本時の学習を価値づける。	・作品について感じとったことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、作品に対する見方や感じ方を深めたことを肯定的に評価し、活動の価値付けをする。 ・自分なりの意味や価値を対話によってつくりだしたことを確認する。	
5 振り返り		
○本時の学習を振り返り、新たに気付いたり感じたりしたことを鑑賞シートに記入する。	・対話を想起したり、対話前の考えと比較したりするように個別に声掛けを行う。 ◆言葉にできないときは、対話に現れていた言葉を指導者がいくつか提示し、活用できるようにする。	鑑賞シート
【児童の振り返りの例】 ○初めは、古いカーテンくらいにしか思わなかったけれど、友達の発表で細かい線で丁寧に表していることに気付きました。身の回りの物にも美しい瞬間があることを伝えたかったからこんなに細かく丁寧に描いたのだと思います。 ○窓の古びた感じを本物みたいにかいていて、ここがつくられてから随分経っていると感じました。 ○海から来る涼しい風かなと思いました。		

板書計画		
⑧ 自分なりの見方や感じ方で作品を鑑賞し、感じたり考えたことを話し合おう。	電子黒板で作品を提示する。	⑤ 話し合っ、新しく気付いたことや考えたことを振り返ろう。

別添①「ファシリテーションの種類と発言例」

ファシリテーション	機能	種類	発言例
基幹ナビゲーション	質問	開かれた質問	「何が見えますか。」 「作品を見て気が付いたことを話してください。」
	指示	発言の多様化	「他に気付いたことはありますか。」 「違う見方はありませんか。」
		対話のための焦点化	「今の発言について考えてみましょう。」 「今の発言に関連した意見はありませんか。」
		結び付け	「ここは〇〇など意見が出ていて、そこは△△など意見が出ていたけど、それらを基に考えると、この絵は何を表しているのだろうか？」
	説明	まとめ	「今日のめあてに振り返って考えてみましょう。」
補助的ナビゲーション	指示	思考のための助言	児童「〇〇な感じがする。」 指導者「みんなもそう見えるかな？」
		話題の転換	「〇〇についてはどう思いますか。」 「ちょっと話を戻しましょう。」
		ゆさぶり	「〇〇がないはどうしてかな？」
	説明	論点の整理	「Aさんはこう言ったけど、Bさんの意見はこうでした。」（対比） 「AさんとBさんの意見をつなげるとこうなりますね。」（結合） 「みなさんの意見を分類すると、三つにわけられますね。」（分類）
リレーション	支援	確認	「今話しているのはこのことですか？」 「こうですか。」
		繰り返し	児童「この人が砂漠で迷っている。」 指導者「ああ、この人は迷っているんですね。」
		言い換え	児童「その人の髪の毛がこんな風になっていて。」 指導者「こんな風って、寝癖のことですね。」
		要約	児童「この人、作業服を着ています。自転車もあって、乗ってきたのかも。」 指導者「この作業服の人が自転車に乗ってきたかもしれないと考えているんだね。」
		付け足し	児童「この人。バイオリンを弾いている。」 指導者「コンサートかな。」 児童「うん。外でするやつ。」 指導者「野外コンサート」
		掘り下げ	「どこからそう思ったの？」 「もう少し詳しく話してください。」
	奨励	称賛	「それは面白い見方ですね。」 「いいところに気が付いたね。」
		同意	「なるほど。」「確かにね。」「本当だ。」
		励まし	「いいよ。」「がんばって。」

鑑賞シート

名前（ ）

＊話合いの約束＊

- ・ みんなの考えを受け入れよう。
- ・ 話し合っていることとつながることから話そう。
- ・ 対話を楽しもう。

① 作品を見て、考えたり感じたりしたことを書きましょう。

② ①はどこからそう感じましたか。作品の形や色などの特徴をもとに書きましょう。

③ この作品を表現した人の思いや願い、目的、表し方の工夫について、考えたことを書きましょう。

④ 作品への興味関心はどのくらい高まりましたか？

10点満点を「とても高まった」とするとどのくらいか、○をつけましょう。

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
とても高まった ← ————— はじめと変わらない